

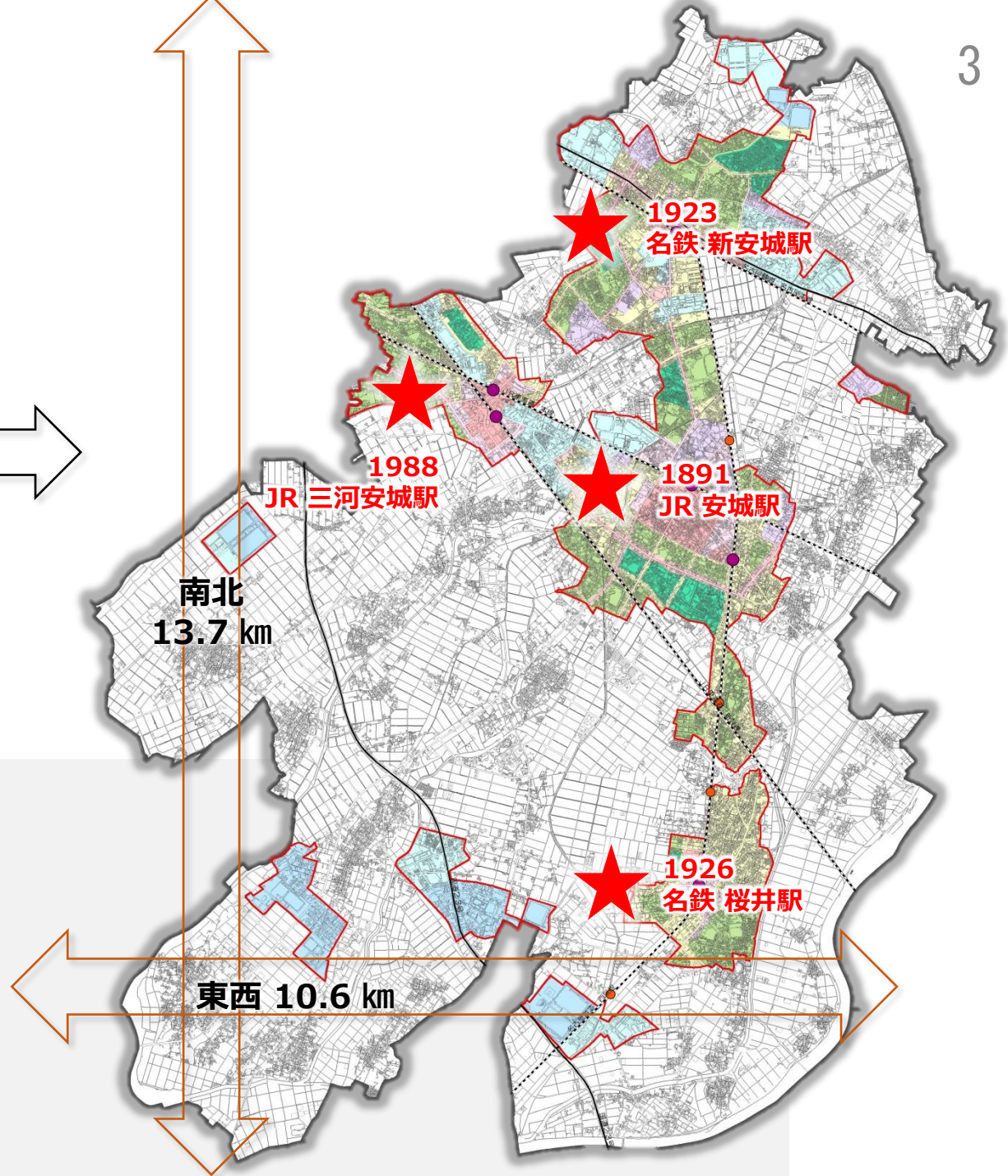
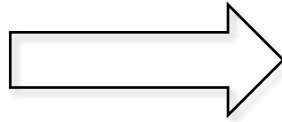
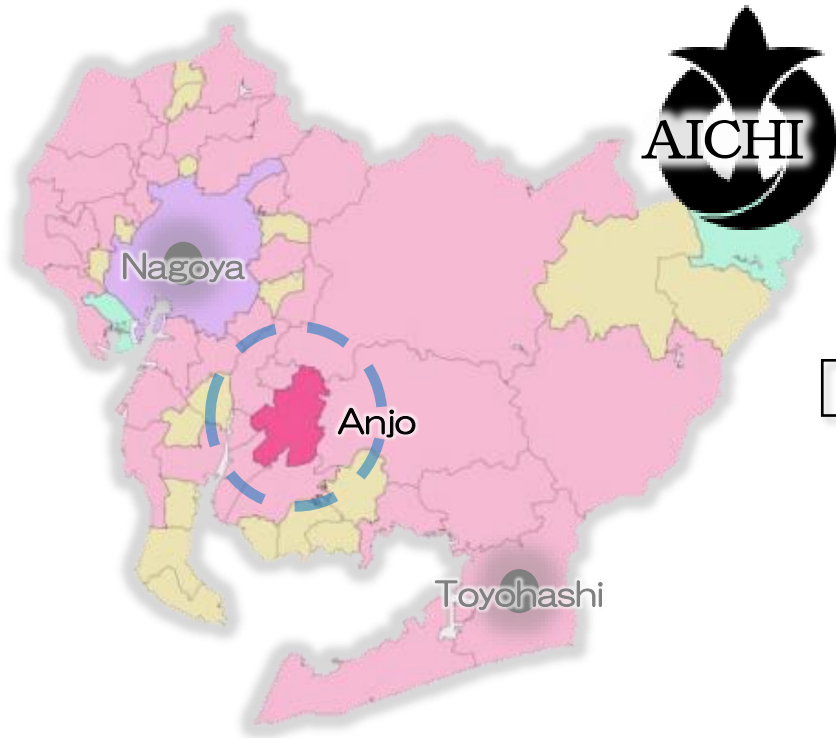
安城市における PPP/PFIの取組

1. 安城市の概要
2. 中心市街地拠点施設・アンフォーレ
3. 三河安城交流拠点・アリーナ



1.安城市の概要

1. 安城市の概要

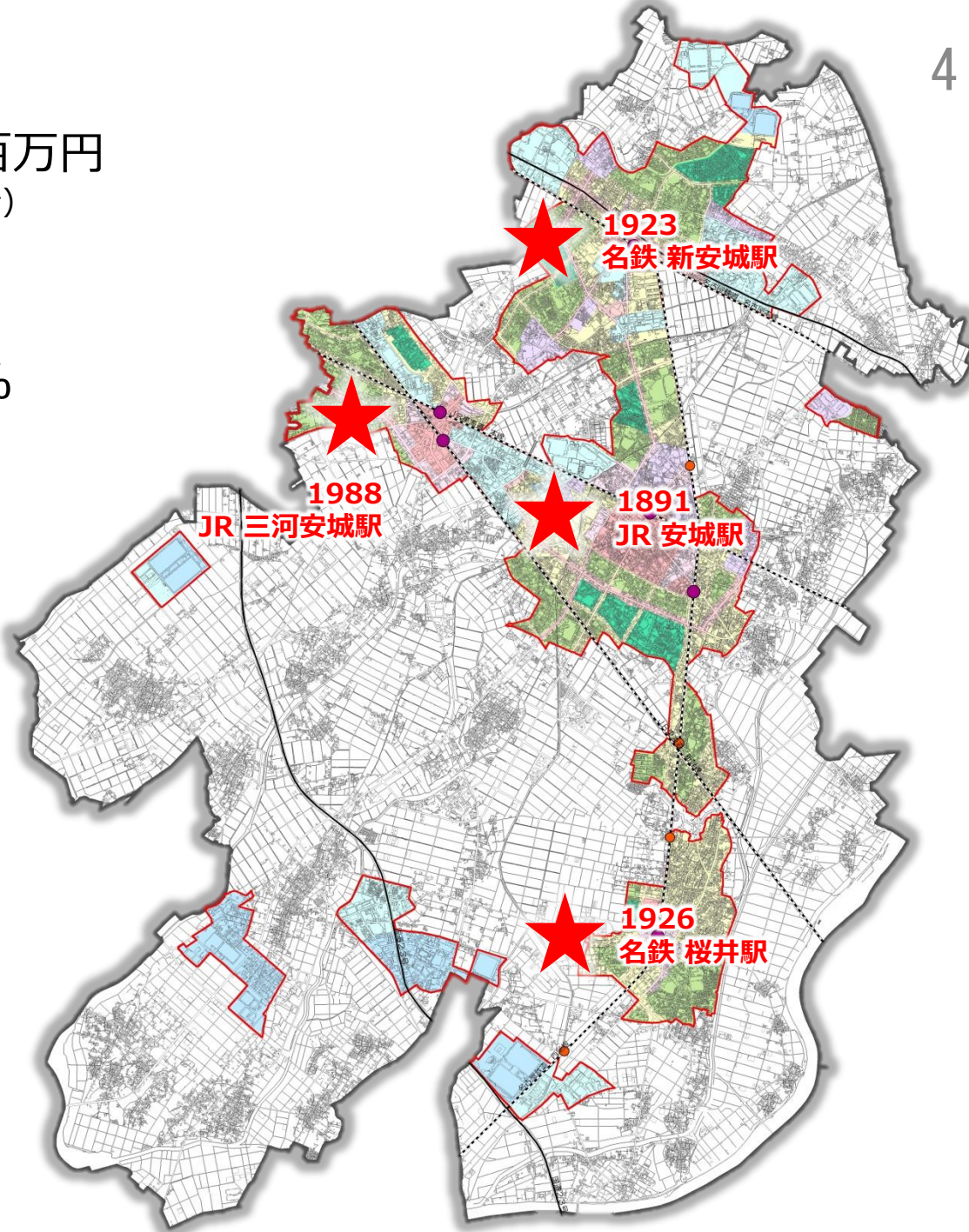


- ・市制施行：昭和27年5月5日
- ・市域：86.05km²
(南北：13.7km 東西10.6km)
- ・高低差：27m
- ・人口：188,010人 (令和6年4月1日)
- ・世帯数：79,153世帯 (令和6年4月1日)

2. 安城市の概要

4

- ・予算規模：73,690百万円
(令和6年度一般会計)
- ・財政力指数：1.30
(令和5年単年度算定)
- ・経常収支比率：84.7%
(令和5年度決算)





2. 中心市街地拠点施設・アノフォーレ



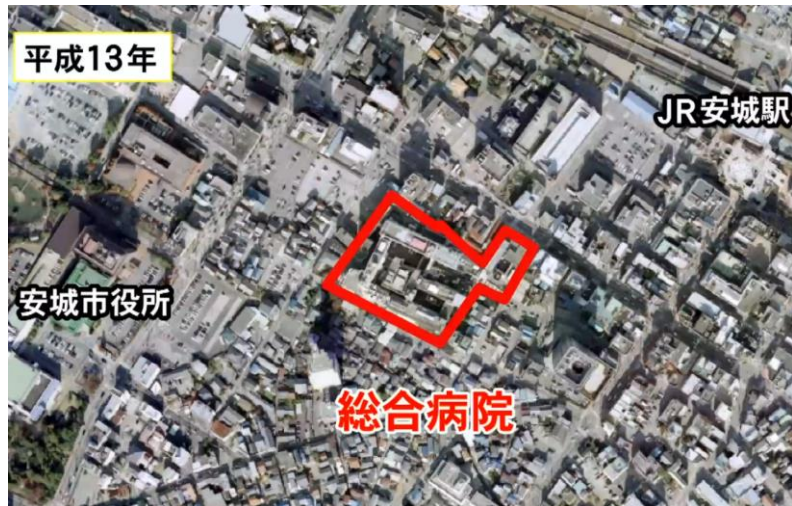


中心市街地拠点施設・アンフォーレ

2017年6月1日（木）OPEN

1. アンフォーレ建設の背景・目的

7



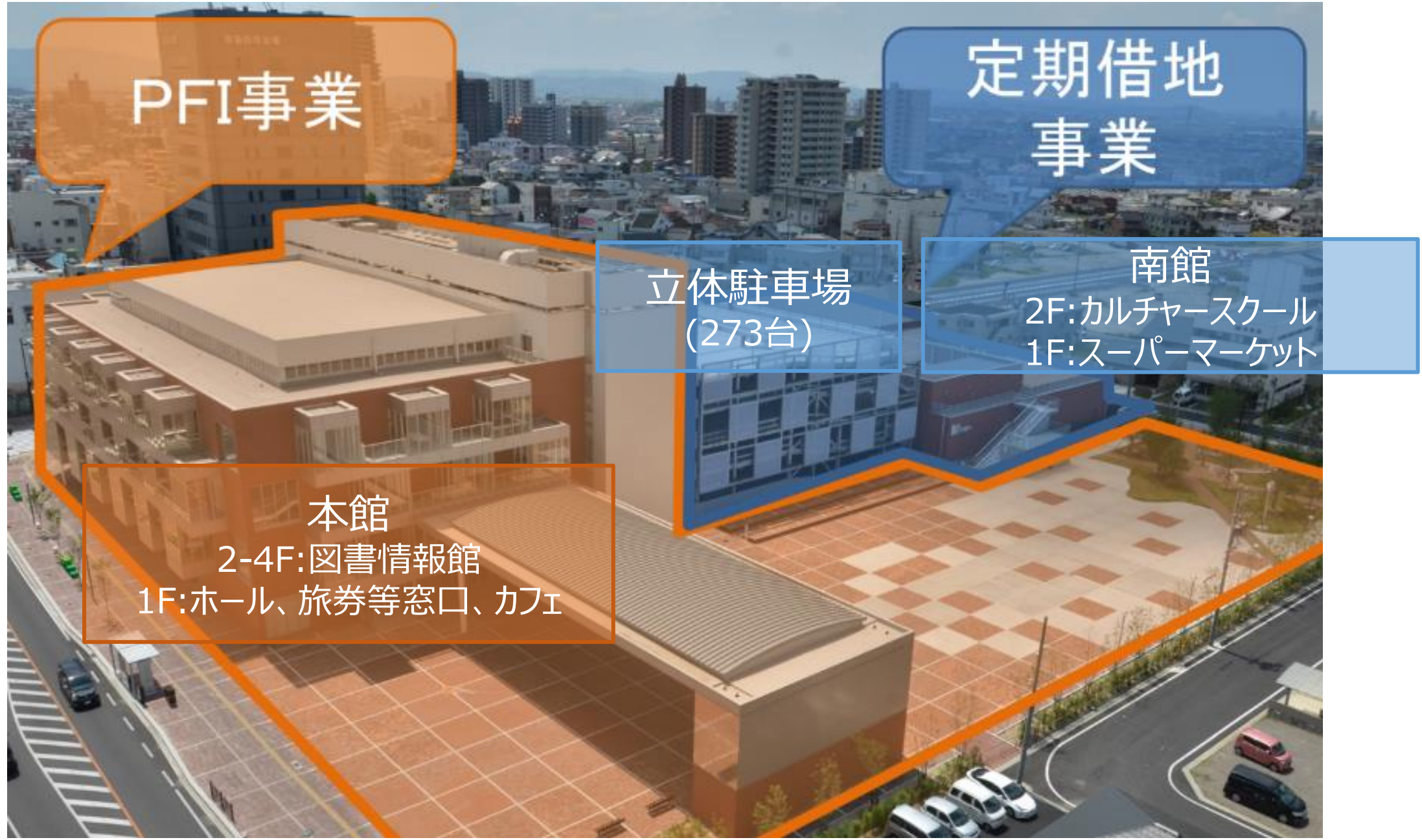
▶背景

- ・病院の移転
 - ・1日3,000人といわれた来街者の喪失
- 求められたのが「**人が集まる施設の整備**」
図書館の来館者が他施設に比べ非常に多い

▶目的

- ・図書館と商業施設の集約・複合化による**交流人口の増加**（病院立地時の水準の回復）
- ・図書館の機能拡充とサービス水準の向上

2. アンフォーレの概要



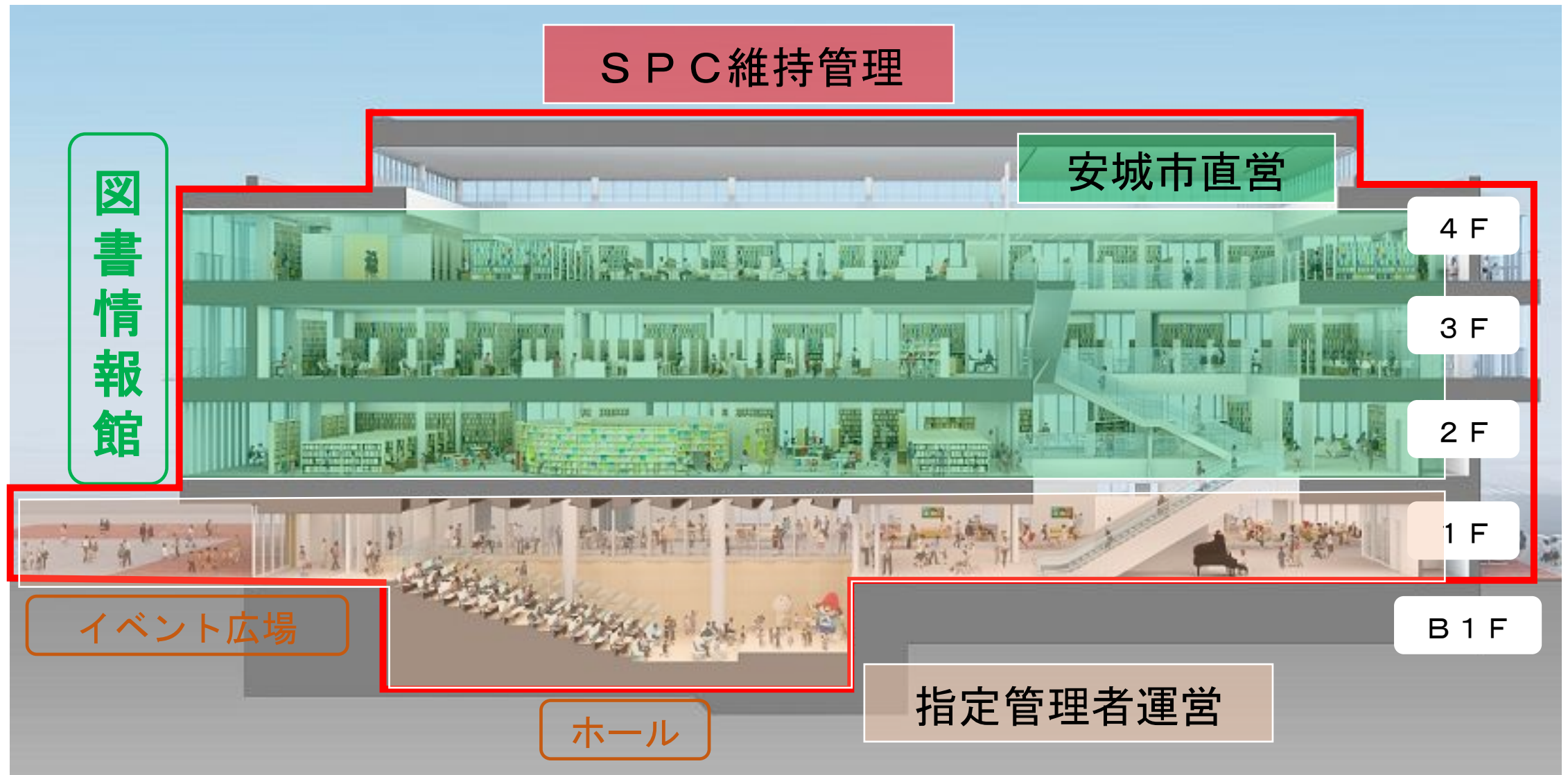
3. PPP/PFI事業スキーム

9

	公共施設	民間施設
事業方式	P F I 事業 (B T O 方式、サービス購入型)	定期借地事業 (独立採算型)
施設	公共施設棟 (9,193m ²) 広場・公園 (4,890m ²)	立体駐車場 (延床面積6,016m ²) 商業施設棟 (延床面積3,041m ²)
事業期間	15年間	20年間
事業者	清水建設 他	スターツアメニティー 他
契約金額	¥ 約6,253,200,000	借地料 約300円／m ² ・月 年額約1,700万円 ※駐車場200台分の使用料 年額約5,400万円
	設計費 約1.5億円	
	建設費 約44.5億円	
	維持管理費 約1億円/年	
V F M	9.5%、約4.7億円 (計画時7.4%)	—
補助金	社会資本整備総合交付金 約13億7,525万円	—
運営者	図書情報館：直営 ホール等：指定管理者	スーパー、カルチャースクール

3. PPP/PFI事業スキーム

10



4. PPP/PFI事業実施にあたり工夫した主な内容

▶事業計画策定時に詳細な市場調査（50社以上への意向調査）を実施

- ・公共施設と民間収益施設とでスキームを分ける
（PFIと定期借地とし、施設を分棟）
- ・公共施設と民間収益施設のSPCを分割可能
- ・民間収益事業者の提案者間の重複応募を認める
- ・定期借地期間を提案者が選択（15年か20年）可能

参加意欲醸成に
つながるため反映

▶1階と広場の運用は、PFI事業者とは別の指定管理者に委託

- ・まちなかの賑わいを創出するための各種イベントを実施する業務も担当
 - 第1期 安城プロモーション（まちづくり会社など）
 - 第2期 トヨタインタプライズ・キャッチネットワーク共同企業体（地元ケーブルテレビなど）

5. PPP/PFI事業実施の主な効果やメリット

アンフォーレ入館者数

	年間入館者数	1日平均
令和3年度	878,167人	2,575人
令和4年度	966,702人	2,835人
令和5年度	1,085,625人	3,174人

図書館情報館入館者数

	年間入館者数	1日平均
令和3年度	498,869人	1,703人
令和4年度	521,237人	1,773人
令和5年度	600,996人	2,051人

- ▶ アンフォーレ本館において、**年間約100万人、約3,100人/日の利用**を創出
図書館単体でも、**年間約60万人**の利用があり、**移転前の1.5倍の集客**を達成
- ▶ **民間の発想で、デザイン上優れた外観**と、開放的かつ特徴的な諸室を備えた空間が設計
- ▶ 設計建設から15年間の維持管理まで9.5%程度、**金額で約4億7,700万円の財政負担縮減**
- ▶ 民間収益施設の**借地料3.3億円（15.7百万円/年）**と公共施設内の提案施設（カフェ）の**行政財産貸付料0.2億円（1.4百万円/年）**を新たな財源として確保



アンフォーレのつくりかた ～図書館を核としたにぎわいの複合施設～

令和5年2月1日刊行

市長、市議会議員、建築家、デザイナー、
利用者、教員、市職員、図書館スタッフ
など37名が様々な立場から寄稿